



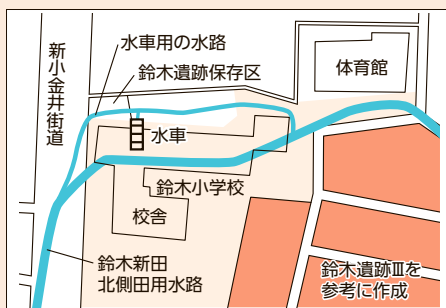
石神井川 源流の名残

鈴木小学校の玄関脇の「古代のオアシス」は、鈴木遺跡を育んだ石神井川につながる地下水が、顔を出したものです。



鈴木遺跡発見の鍵 江戸時代の水車跡

鈴木遺跡の場所には江戸時代、水車がありました。この水車はもともと小麦をひく水車でしたが、幕末に黒船が来たとき、大砲に使う火薬を作るようになりました。しかし、10か月ほどで爆発事故が起きてしまいます。



奈良時代の住居跡 八小遺跡

昭和44年、小平第八小学校の校庭で学校職員がごみ穴を掘ったときに遺物が見つかり、調査すると1軒の竪穴住居と甕（こしき）と呼ばれる底が無い土器が見つかりました。奈良・平安時代、この付近は川が無く、ほかに住居跡が見つかっていないことから、作業小屋のようなものではなかったかと考えられています。



甕（こしき）とは、水を入れたかめの上にはめ込み、かまどにかけて穀物を蒸すために使う道具です。

鈴木遺跡国史跡化 記念写真パネル展

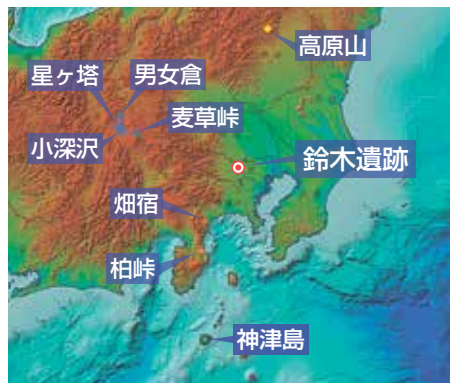
発掘時の調査風景、出土遺物などの貴重な写真、国指定史跡化に向けた取り組みの中で明らかになったことなどをパネルにして紹介します。と き 3月20日（土・祝）～5月19日（水） 午前10時～午後7時 ※金曜日は休館日。土曜・日曜日、祝日は午後5時まで。ところ 中央図書館 2階ロビー

鈴木遺跡資料館

鈴木遺跡から出土した石器や、おとし穴の標本などを展示しています。ところ 小平市鈴木町1丁目487-1 開館日 水曜・土曜・日曜日、祝日の午前10時～午後4時 ※年末年始（12月27日から1月5日）を除く。駐車場 5台あり。問合せ 鈴木遺跡資料館 ☎・F A X 042(323)2233



石器の種類と想像される使用例



黒曜石の産地と鈴木遺跡の位置



出土した石斧



黒曜石でできたナイフ形石器



鈴木遺跡で見つかった石器



石器がまとまっていた様子



タールやすが付



火を受けて赤くな



当時の人が使っていた縄文土器

再びこの場所に人の生活の営みが戻ってくるのは、玉川上水からの分水が引かれ、武蔵野新田開発が行われる江戸時代中期以降のことです。

鈴木遺跡から 発見された遺物 石斧と黒曜石

鈴木遺跡からは、後期旧石器時代だけでも12万点を超える石器が出土しています。土器などの焼き物を知らなかった当時の人々は、石でできた道具を使っていた。出土した石器の中でも特徴的なものが石斧です。石斧は、石を加工して斧の形に仕上げた比較的大きな石器で、木の幹や動物の骨などを打ち割るのに使ったと考えられています。石斧は、全国で千点ほどしか見つかっていませんが、鈴木遺跡からは22点見つかっています。

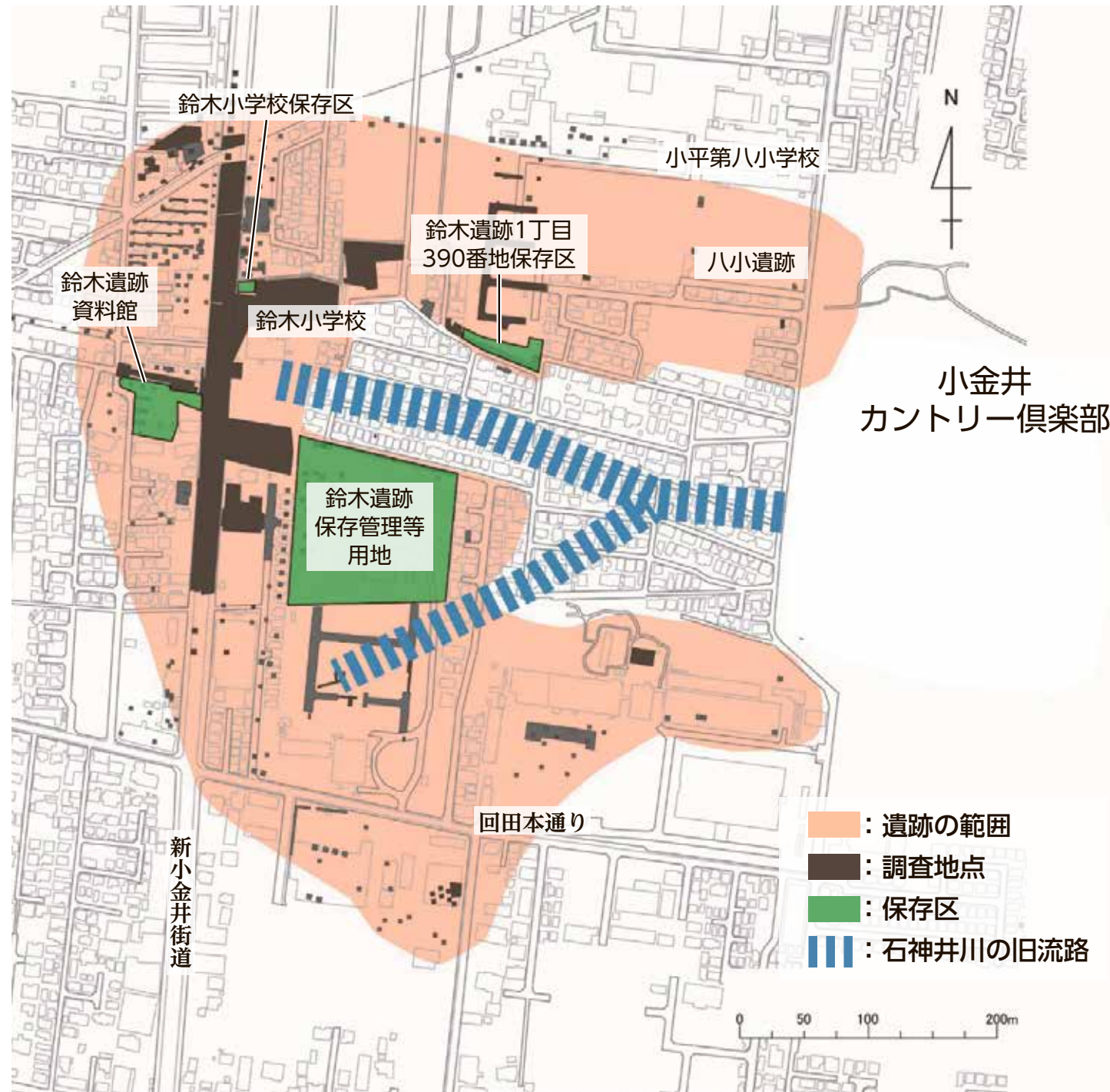
また、鈴木遺跡から見つかった石器の材料として多く使われていたのは黒曜石です。黒曜石は、割れ口の鋭さから、動物の肉を切ったり、やり先にしたナイフ形石器などに使われていました。黒曜石は溶岩が冷える時にできる天然のガラスで、鈴木遺跡付近からは採取できません。出土した黒曜石を分析すると、現在の長野県や伊豆箱根、日光などと似たもので、中には伊豆諸島の神津島のものもあることが分析から推定されました。当時の人々の交易を含めた活動範囲の広さがうかがえます。

見つかった調理場の跡

鈴木遺跡からは、火を受けて赤くなった拳くらいの大きさの石がたくさん集められた、礫群（れきぐん）と呼ばれる遺構が3百か所以上見つかっています。石の中には、タールやすが付着したものもありました。これは、まだ土器のような道具が無かった当時、小石を集め、そのうえでたき火をして石を焼き、捕まえた動物の肉を載せて料理した跡だと考えられています。

縄文時代 以降の遺跡

鈴木遺跡が後期旧石器時代の代表的な遺跡となった理由は、石神井川の源流部という恵まれた環境によるものでした。石神井川の源流部が東側（現在の小金井カントリー倶楽部付近）に移動した縄文時代の人々はおとし穴を作り、イノシシやシカを獲っていました。この時代の人たちにとって、起伏に富んだ鈴木遺跡の場所は、狩りのための絶好の場所でした。縄文時代以降は、水田による稲作をはじめとする農業が生活の中心となり、鈴木遺跡の地からは人の姿が見られなくなりました。



鈴木遺跡が明かす 大昔の小平

鈴木遺跡は鈴木町一丁目周辺にあります（左図参照）。当時の人々の暮らしや、実際に出土したものを紹介します。問合せ 文化スポーツ課 ☎042(346)9501

当時の人々の暮らし

鈴木遺跡の場所に人々が住んでいたのは、今からおおよそ3万8千年前から1万6千年前までの後期旧石器時代です。このころは氷河時代で、地球全体が現在より寒冷でした。中でも、最も寒かった約2万年前は、気温が今より7度から8度ほど低かったと言われています。

当時の人々は、農耕や牧畜などはせず、ナウマンゾウ、オオソシカ、ヤギウなどの狩猟を行ったり、自然にあるものをつたり集めたりして暮らしていました。しかし、針葉樹が多く、食べられる木の実が少なかったうえ、土器や弓矢といった道具もなく、食物の入手は非常に困難でした。このため、人々は家族ほどの少人数のグループで生活し、食物を求めて住む場所を頻りに移動しなくてはなりません。

鈴木遺跡には当時、現在の石神井川の源流があり、水に恵まれた場所だったことから、人々の生活の拠点になり、交流の地であったと考えられています。

鈴木遺跡の地層

地層とは、火山灰などが下から順に降り積もったものです。その中間の人間活動が確認できるまとまりを文化層と言います。

鈴木遺跡では、12枚もの文化層があります。ここから、長い年月にわたり鈴木遺跡が当時の人々の生活の拠点になっていたことがわかります。



現代	江戸時代後期～幕末	奈良・平安時代	縄文時代	後期旧石器時代
----	-----------	---------	------	---------

約166年前

1969年 八小遺跡が見つかる

1974年 鈴木小学校予定地で、鈴木遺跡が確認される

2021年 鈴木遺跡が国史跡に指定される

約300年前

武蔵野新田開発で鈴木新田が開かれる

玉川上水の分水に粉ひき用の水車が仕掛けられ、後に大砲用火薬作りの水車となった

見つかった水車の跡

約1,200年前

水の無い原野の中に、かやを刈る人たちの仮住まいとして1軒の竪穴住居が作られた（後に発見されて「八小遺跡」となる）

八小遺跡

約3,000年前

石神井川の水源地が東に移り、居住には適さない土地となるが、たくさんのおとし穴が作られ、狩猟の場として使われた

おとし穴の標本

約16,000年～38,000年前

自然の水に乏しい場所の真ん中に、水が湧き出していたため、人々が繰り返し訪れ、拠点的な場所として利用されていた

後期旧石器時代暮らしの想像図

鈴木遺跡年表

鈴木遺跡紹介動画

小平青年会議所が鈴木遺跡を紹介する動画を、動画投稿サイトYouTubeで公開しています。動画では、鈴木遺跡をクイズ形式で紹介しています。動画は、右図QRコードからご覧ください。



発掘調査 総括報告書

鈴木遺跡の学術的分析結果や調査の内容を記載した鈴木遺跡発掘調査総括報告書（付録DVDは本編の根拠となるデータ集）を市政資料コーナー（市役所1階）で販売しています。郵送による購入方法など、詳しくは小平市ホームページをご覧ください。問合せ 文化スポーツ課 ☎042(346)9501

